

症例 2

永久歯の6本の先天性欠如がわかったケース

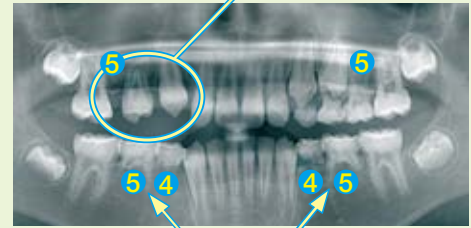
- Bさん:10歳6か月
- 主訴:上の歯が前に出ている(出っ歯)

治療前は、上下左右に8本あるはずの小白歯が上顎右側に1本しか生えていない状態で、パノラマX線写真を撮ると合計6本の永久歯が生まれながらにない先天性欠如であることがわかりました。このような多数歯欠損では将来、補綴治療(入れ歯やインプラントで歯のないところを補う治療)が必要になることが多いため、矯正歯科治療では、保存できる乳歯を残して、すでに生えている永久歯とともに並べ、咬み合わせを整えていきました。

★パノラマX線写真を撮る利点

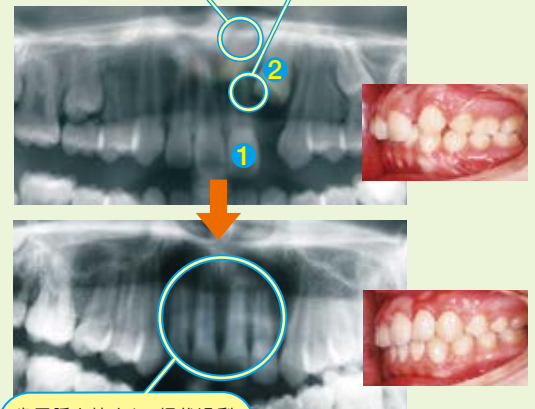
永久歯の先天性欠如が判明していない状態で乳歯が抜けると、その後、隣接する永久歯が移動してしまい、歯列の悪化につながります。また、後続する永久歯がないまま乳歯が抜けて咬合力が加わらなくなると、歯槽骨がやせ、その後そこに歯を動かしたりインプラントを植えたりすることが困難になります。そのため、早期に永久歯の有無を把握しておくことで、今回のように乳歯の脱落直後から歯を移動して歯槽骨のレベルを維持したり、早いうちから将来の補綴治療に備えた治療計画を立てたりすることができます。

先天的に欠如している⑤(第二小臼歯)の先行乳歯もすでに抜けているため、第一小臼歯が後方に移動してしまっている



④(第一小臼歯)と⑤(第二小臼歯)の計6本が欠損している

埋伏過剰歯 歯牙腫



歯牙腫を摘出し、埋伏過剰歯を抜歯。側切歯を牽引して、歯列内に配列した

※埋伏過剰歯とは
通常の歯の本数よりも多く形づくられた過剰歯のうち、顎骨の中に埋まっている歯のこと。永久歯の歯列に影響する場合は抜歯が基本。
※歯牙腫とは
歯が形成される過程で生じる良性腫瘍。自覚症状はなく、X線検査によって発見される場合が多い。

症例 3

埋伏過剰歯と歯牙腫が見つかったケース

- Cさん:10歳10か月
- 主訴:左上の2番目の歯が生えてこない

治療前の検査でパノラマX線写真を撮ると、上顎の前歯の根の先端付近に埋伏過剰歯^{※1}と歯牙腫^{※2}が発見され、②(側切歯)の萌出を妨げていることがわかりました。そこで治療では、装置をつけて側切歯が萌出するためのスペースを獲得し、さらに側切歯の萌出を妨げていた歯牙腫の摘出と、それと同時に埋伏過剰歯の抜歯を行った上で側切歯を牽引し、歯列内に配列しました。

★パノラマX線写真を撮る利点

パノラマX線写真によって埋伏過剰歯と歯牙腫の発見につながりました。歯牙腫があると、後続する永久歯は生えてきません。早期に発見し、牽引することで歯を正常な位置に誘導できたのは大きな意味があります。

症例 4

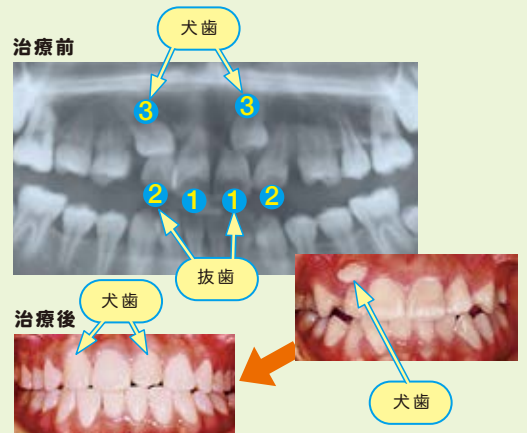
犬歯の萌出異常により抜歯したケース

- Dさん:12歳3か月
- 主訴:犬歯が変な位置から生えてきた、前歯がぐらぐらする

上顎右側の側切歯(前から2番目)の上から歯が生えており、また左側の犬歯は生えていませんでした。パノラマX線写真を撮ると、右側の③(犬歯)が斜めを向いて、左側の③(犬歯)は①(中切歯)の上に埋まっており、上顎右側の②と上顎左側の①の歯根部に犬歯がぶつかり、歯の根もとが吸収されてほとんどなくなることがわかりました。そこで治療では、歯根吸収されてしまった2本の歯を抜歯し、その空いたスペースに③を萌出させるような矯正歯科治療を行いました。

★パノラマX線写真を撮る利点

成長期に安定した咬み合わせをつくることができました。しかし、もっと早い時期にパノラマX線写真を撮っていれば、前歯2本を失わずに済み、犬歯を本来の3番目の位置に並べることができたと思われます。



コラム

パノラマX線検査の被曝線量
X線と聞くと被曝線量が気になるものですが、パノラマX線写真検査の1回あたりの被曝線量は0.004~0.03mSv(ミリシーベルト)。これは日本における自然被曝量の1~7日程度の量に過ぎず、医科用胸部X線の1回約6.9mSvと比べても、かなり少ない量となっています。また、近年は機器のデジタル化によって、ますます被曝線量は少なくなっています。

まとめ

よく噛める安定した歯並び・咬み合わせをつくるために
7~9歳を目安に、
歯科医院でパノラマX線写真を撮りましょう!

〈料金目安:5,000~10,000円〉※自費診療につき、
医院によって検査料金は異なります。

★今回の内容は本会公式ホームページ内「トレンドウォッチ」でもご紹介しています。右のQRコードよりアクセスしてください。

